

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 186号

## 「聖書的教会アシュラムの目指すもの」

(使徒言行録 2 : 43 ~ 47)

小島 十二



E・スタンレー・ジョーンズ博士は、使徒言行録に記されている交わりを、現在の教会に取り戻したいとの願いから、アシュラム運動を始めたとかたっています。牧師の四男に生まれた私は父母の死後一時放蕩息子となり迷い出ましたが、名古屋イエス・キリスト教会（伊東秀雄牧師）の会員となり求道中にキリストの御霊を受けてそのバプテスマに与り聖められ成長しキリストの形に作りあげられると教えられました。2コリントの手紙 3 : 16-18.

召されて関西聖書神学校の学びは、自我に死に、キリストに生きる、聖霊に聞き従う生活の修練でありました。教会は、礼拝、祈祷会、聖会、修養会、研修グループなど学習し交わります。

アシュラムは聖書的教会の交わりを祈祷と、み言葉の静聴と、聖霊の導きを頂きつつ、主キリストの再臨、審判と賞与の日を目指して待望する共励運動です。

聖書が語り、示し、約束する「交わり」は四つです。第1 聖父と御子と御霊の三位一体の交わり、第2、神と人の人格的交わりです。I ヨハネの手紙 I : 3、II コリントの手紙 5 : 14 ~ 21、主の十字架による和解、義とされる喜びの交わりです。第3 聖徒の交わり、使徒信条に告白する聖霊による兄弟姉妹の交わりです。I コリント 13 章、ヤコブの手紙 5 : 13-20。第4 は復活の歓喜、永遠の命の希望の交わりです。I コリントの手紙 15 : 50 ~ 58、II ペテロの手紙 1 : 5-11、ヨハネ黙示録 21 : 1-8。

87歳のいま、活けるキリストの福音により今日も明日も、キリストはわが主、わがすべてなり、キリストは無尽蔵の富、私の生きている限りは、必ず恵みと、慈しみとが伴うでしょう。栄光が主にありますように。「すべて神の御霊に導かれているものは神の子です」ロマ 8 : 14。毎日、毎時、毎分、毎秒、すべての時は主の御手にあり、主の御霊の支配に信頼し、常に喜び、絶えず祈り、すべての事を感謝し、神を崇めます。わたしの体は聖霊の宮であり、もはやわたしのものではなく、神の栄光のあらわれるためのものであります。I コリントの手紙 6 : 19-20、ガラテヤの手紙 5 : 16-26、イザヤ書 46 : 3, 4。

御霊を悲しめる言動を注意深く避け、心の思いを神に喜ばれるように明け渡し、神を知り、感謝しつつ互に仕えていこう。ヘブルの手紙 12 : 28, 29。「主よ早くきてください」。

(日本イエス・キリスト教団引退牧師)

## 霊 想



### 「福音前進の基礎アシラム」 第54回関東アシラムに参加して 使徒言行録16章10節

アッセンブリー教団

名古屋神召教会牧師

内村 撒母耳

私は高瀬恒徳師、海老沢宣道師、大石嗣郎師の日本アシラムの会長時代に「訪問伝道」と共に参加していましたが今回久しぶりに参加が赦され心から感謝しています。助言者として招かれましたが参加者各位が必要が満たされて喜び輝く姿に、準備した大半は必要がないので削除しました。

しかし2回の「福音の時」を与えられて「聖霊の導き」と福音の前進」と題して使徒言行録16章10節を中心として語る事ができました。

パウロが幻を受けて神の導きであると確信してトロアスからマケドニヤへ行くところです。福音が拡大され前進している聖書の場所です。

(1) 今はどんな時でしょうか。少子高齢化です。教会でも高齢化、教職の高齢化、神学生の減少、昨年からの日本の人口も初めて減少しました。これからも人口は減少します。その時、教会はイベントやセレモニー、定例集会をよりよくしようとしています。良い事ですが、果たしてそれでよいでしょうか。

(2) 使徒時代、初代の教会はどうだったでしょうか。「日々」に信仰者として生活をして良き証人となつて人々がキリスト教は良いなあ、私もありたいと、日々救われるものが出てこっている。

(3) この暗い世を変えて行くためにアシラムによって教会が、家庭が、全能の神によって変えられ、聖霊に満たされ導かれて、喜びに溢れて、積極的に教会の奉仕と宣教に励むように期待されている。この時、これが実現するならば家庭が、教会が、あなたが変わられたのを見て、人々魅力を感じて心を開くでしょう。

このことを祈りつつ、この度参加させて頂いたアシラムの全体から以下の感慨をもうしあげます。

まず継続は力である事を感じました。横山義孝日本クリスチャンアシラム連盟理事長を始め委員の方々の祈りとお招きを得て今回久しぶりに箱根山荘における54回関東アシラムに参加できる恵みに与りました。

た。昨年は日本アシラム60年記念集会、並に文集が刊行されアシラム誌185号の継続がありました。これは驚異です。運動が続くためには本部・センター・有給の専従者・土地・建物等が必要といわれますがそれが無いのに半世紀を超えるアシラム活動が続いています。勿論今まで尊敬する指導者達が協力しあつて奉仕された結果であります。その継続している誘因を以下のように考えます。

(1) 活動の方法にバラエティーがあり、とりあげられている。即ち全国レベルのアシラム・地区別、個教会・又個人のアプラハムある。色々な形で活発に今日まで行われていること。

(2) 基本・目的・内容がきちんと整理できている。日本クリスチャンアシラム連盟が発行している「アシラムの原則と実際」「いかに祈るか」と、年4回発行の「日本アシラム誌」にそれを見ることができると。日本アシラム誌にはアシラム精神の解説、黙想文・内外ニュースが偏向なしに理念が示され、地域でも個教会でも行うことが出来る。

(3) 信仰者が「五つの原則」を目標にすればその信徒のニードが満たされます。生命と、喜びと希望に溢れた良い教会員となつて日常生活が統

けられます。日曜日だけのクリスチャンでなく、毎日聖書に教えられ、祈り、聖霊に導かれていきます。即ち願いながらも私ごとや世俗の用事によって妨げられて祈る事や黙想することで難しさがアシラムに参加することだ整えられていきます。その具体的方法が開心の時、静聴の時、福音の時、祈りの細胞、充滿の時の順序です。

今回参加させて頂いてスピリットは今も変わらず燃えていて神の素晴らしい働きかけがあり、私もあるべき姿を示されマンネリから抜け出ることができました。本当に感謝します。ハレルヤ。

### 第51回九州アシラム報告

事務局 鮫島 則雄

第五一回九州アシラムは九月一八〜一九日の両日、すっかり定着した会場・福岡・宗像市のカトリック「黙想の家」で開催されました。

今回は久しぶりに関東地区で活躍中の助言者を迎えて行おうということになり、横浜岡村教会の安藤脩師に助言者としてご奉仕いただきました。打ち合わせの段階で安藤先生と少なからぬ繋がりのある九州地区スタッフがおられて、主のご配慮に驚き、また感謝しました。安藤先生の出生

地は鹿児島県の日置郡吹上町ということを知り、隣りの伊集院町出身が元九州アシラム委員長の今村幸文師、安藤先生の出身大学と学生時代に入信された教会が宮崎大学と宮崎清水町教会と、前九州アシラム委員長長の鍋倉勲師と同じ道を通っておられたということ、さらには受浸牧師が同じ吉間磯吉師だと伺い、同郷会か同窓会かという雰囲気の中、和やかに、かつ厳かに「キリストを生きる」を主題に、フィリピ書一章、二章をテキストに、安藤先生ご自身のお証しを通して、今も生きて働いておられるキリストの恵みの広さ・



高さ・深さをしっかりと分かち合っていたできました。毎朝の早天祈祷を継続していることで自己満足に浸っていた己の信仰の至らなさを示され、深く悔い改めたことでした。

ただその中で、「あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています」。

というパウロの奨めの言葉をいただき、自分の力ではなく、うちに働いて下さる御霊なる主の御助けにすがって生きることが、主の御心であることを教えられ、大いなる慰めと「明け渡し」の大切さを再確認しました。

安藤師は大学卒業後、声楽の道にさらに究めたく次の学び舎を受験されるも失敗され、鹿児島・大口にあるミッションスクールへ就職され、生活指導部長の務めの中で、今から約四〇年前に、今回の会場となった宗像「黙想の家」に生徒を引率して来られたことも感慨深く紹介されていきました。そのうちに自分に対する主の導きは声楽家でもなく、学校教育でもなく、主に従う伝道者だとの思いが与えられて献身され、今があることを紹介されました。

牧会の現場でさまざまな試練や苦しみを通されるが、パウロは自分の体験から「あなたがたには、キリ

ストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。」と、苦しみの中にあつて耐え忍ぶとき、その場に主が共にいてくださり、歩けない私たちを背負って歩いてくださっていることをマーガレット・F・パワーズの「フット・プリント」の誌をもとにお奨めして下さり、大いに力づけられました。ハレルヤ！

**第50回 関西アシラムに**

参加して

扇町教会 一木 寛子

主題「御言葉への静聴と立証」

10月9日(日)〜10日(月祝)

母の日ホテルにて各自礼拝を守り、15時30分から開会礼拝、50周年を迎えて、小島十二先生の御言葉から始まりました。助言者工藤弘雄先生をお迎えして2日間、福音の時、第一ヨハネ一章・1節〜5節の解きあかしを懇切丁寧にして下さいました。御霊が豊かに働き光の中を歩むように、そして御子イエス・キリストの血によってあらゆる罪が清められます。また、ルカ福音書3章21節〜22節を通し、ヨルダン川の主イエスの洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見え



る姿でイエスの上に降って来た。パテスマの見える神のことばにも、感謝しました。連鎖祈祷は21時から2日目の6時30分まで各自1時間の間、真剣に祈り聖書を読むことが出来ました。特に支部長の小島十二先生の長い時間、祈られておられるお姿にはどんなに心打たれたことでしょう。いろいろ御身体に痛みをおかかえになられておられます先生のご健康を祈られずにおれません。2日目の朝の祈りは工藤弘雄先生の聖書

の御言葉から、ファイルモンへの手紙・ローマの獄中からパウロがオネシモのための取なしの祈りでした。深い愛を身にしみて思わされました。祈りの細胞の時はそれぞれ祈っていた。祈りだいたい課題を出し合って話し合ってよき交わりの時です。シスターが作って下さる食事もとても美味しく、打ち解ける楽しい交わりの時でした。充滿の時はエペソ一章23節教会はイエスの体である。取りなしの祈りの大切さ、イエスキリストの交わりがあることよって、私達も互いに愛でおられた今は主のもとに召された先生方を偲び、参加者30名は清められ満たされ、各教会に家庭に、又の再会を祈りつつ、参会致しました。感謝して御報告致します。

**第35回岡村アシラム報告**

安藤 脩

日時・7月16日(土)〜17日(日)  
 主題「キリストを生きる」

霊的整え、成長を求めて、35回のアシラムを積み重ねて来れました。多くのことを感謝いたします。多くの教師、他教会の信徒で、アシラムを信仰生活の中に位置づけている証し者のご協力で、ここまで毎年欠かすことなく継続できました。

今年、助言者は私・安藤がい



たしましたが、証し者として、東京中野にある更生教会より、奥山清子姉においでいただきました。

今年の主題「キリストを生きる」は、アシラムの総主題である「イエスは主である」という信仰告白を、生活の中に実質化して行くものであります。それゆえ、パウロの生き様を心に留め、キリスト者に何を願っていたかを知るため、準備祈祷ではフィリピの信徒への手紙とテトスへの手紙を読みました。

第1日目の参加者は23名でしたが、心を開き、ニードを出し合い祈り合いました。岡村アシラムの特徴の一つであるファミリーアワーでは、「今後の横浜岡村教会を考える

(昨年)」等の話し合いも致しますが、今年、安藤善枝姉と堀内強美兄が証しをしました。

善枝姉は華舟として4年連続でジャパンエキスポ(パリで行なわれる、日本文化を紹介する祭り)に参加しての恵みを話されました。ジャパンエキスポは年々、入場者が増加し、4日間で25万人ほどなっているようです。華舟さんは日本伝統文化の「WABI-SABI」部門にブースを与えられ墨彩画を紹介しています。連続出店しているの常連の人もあるようになったこと。華舟さんは会場で墨と顔彩を使って描く実演をしているためか、ブース部門では入場者が最高だったようです。そして今年、当教会員で、現在パリに作曲の勉強のため留学中の中村梓姉とも会って、楽しい交わりの時をもてたとの証しでした。

堀内強美兄は会堂建築を通して信仰に導かれ、教会員となった兄弟です。彼の証しは会堂建築やご自分の仕事、事故、病気を通して、神が背後におられて、全てを最善に導いてくださっているとの恵みの証し(横浜岡村教会「↓検索」のホームページ・岡村の泉2005年秋号を是非御覧ください)をされ、一同、主の聖名を称え感謝しました。

17日はジュニアチャーチに出席した28名の子らが、子どもアシラム

として、3組に分かれて、スタッフの導きで、祈りの課題を出し合い、お友達のために祈りあうことが出来ました。

大人の参加者は41名でしたが、今回のアシラムでも、主イエスキリストを更に良く知り、主に一歩近づき、主に似た者として生きるように、日々の静聴を大事に守ろうと決心できた集会になりました。

**アシラム予告**

●第48回城北アシラム

とき 17年2月11(土)

ところ 本ホーリネス教団池ノ上

助言者 教会

●第51回関西アシラム

とき 17年9月17(日)〜18(月)

ところ 神戸母の家ホテル

助言者 関西聖書神学校々々長

鎌野善三師

●第55回関東アシラム

とき 17年9月18(月)〜20(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘

助言者 村瀬俊夫師

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6  
 池の上キリスト教会内

日本クリスチャン・アシラム連盟

振替口座 東京〇〇一〇〇一四五五八